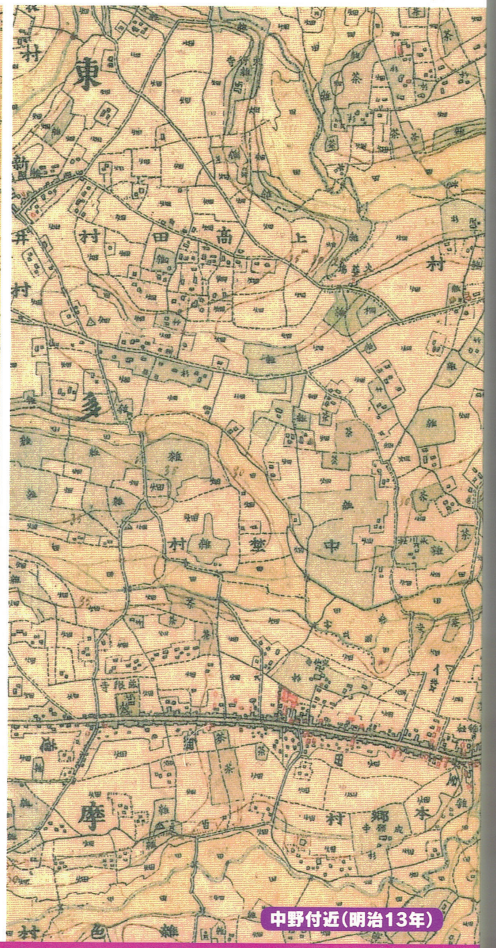
9784802132176
ISBN978-4-8021-3217-6
C0026 ¥1900E

1920026019000
発行：フォト・パブリッシング
発売：メディアパル
定価（本体1900円＋税）

谷付近（明治13年）



中野付近（明治13年）

05 杉並区立宮前図書館
☎ 3333-5166
0517375630

豊多摩郡と東京市の時代にタイムトリップ！

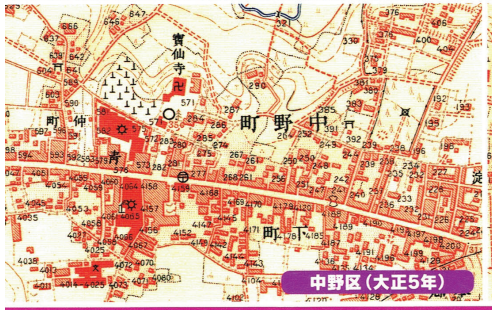
発掘写真で訪ねる

中野区・杉並区 古地図散歩

中野村・杉並村 130周年 記念出版！

中村建治

～明治・大正・昭和の街角～



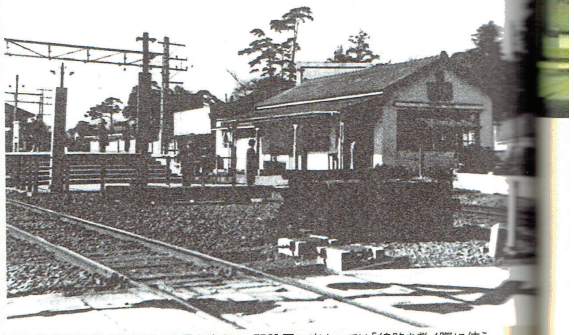
中野区（大正5年）

杉並区（大正5年）

フォト・パブリッシング

【高井戸駅】

環状8号線を跨ぐように設置されている高架駅。昭和8(1933)年8月の開業で、駅名は地名の「高井戸」が由来。区内の井の頭線の駅では乗降客が4万4000人ほどで最も多い。階段を上って改札に辿る駅への階段は健在だ。平成18(2006)年12月に駅舎をリニューアルし「京王リトナール高井戸」の中に入る。◎昭和32年頃　提供:京王電鉄



【富士見ヶ丘駅】

昭和8(1933)年8月の開業駅だが、井の頭線の区内駅としては乗降客が約1万400人と最も少ない。駅設置に当たっては「線路を敷く際に使う盛り土は、地元の協力で確保できたから、感謝を込めて駅を設置した」という。駅名の富士見ヶ丘という地名は存在しないが、当地に見える「富士山が見えた土地」からとされる。昭和41(1966)年に車庫・検車区が永福町駅から移転した。(関係記事167ページ)◎昭和30年　提供:杉並区

【久我山駅】

他の駅と同様に昭和8(1933)年8月の開業駅。付近には有名大学受験で実績を残す都立西高やスポーツで知られる国学院久我山高など、全国的に知られる高校があり、乗降客は4万人を超える。駅名は古来からの地名(久ヶ山村)が由来。かつての駅舎は小さな木造駅舎だったが、平成17(2005)年に橋上駅舎へ変わり駅ビル風の雰囲気を見せる。◎昭和55年　撮影:田口政典

駅舎・いま&むかし③ 京王電鉄線

井の頭線(旧帝都電鉄線)

昭和8(1933)年8月に「帝都電鉄」が敷設した路線。戦時には東京急行電鉄の経営となるが、戦後に「帝都電鉄」と「京王電気軌道」が統合し「京王帝都電鉄」の経営となった。全17駅中6駅が杉並区内を走る。

【永福町駅】

「帝都電鉄」(現京王井の頭線)開業時の昭和8(1933)年8月に設置した駅。駅名は地名(旧杉並区永福町)が由来だが、永福は近くの寺院・永福寺から来ている。駅は戦時の大空襲で壊滅状態になるが、昭和45(1970)年4月までは構内に検車区・工場があった。平成22(2010)年3月に駅舎は橋上化し、駅ビル「京王リトナード永福町」に入る。駅の2階には初代駅舎の写真が掛かる。
◎平成19年

【西永福駅】

「帝都電鉄」(現京王井の頭線)が開業時の昭和8(1933)年8月に設置した駅で、駅名は永福町駅の西側にあることが由来。平成20(2008)年3月に橋上の現駅舎に改築される。開業時は閑散としていた地域だったが、帝都電鉄が分譲地販売に力を入れての宅地化が進み賑やかになった。
◎平成15年

【浜田山駅】

開業時の昭和8(1933)年8月に開業した駅。駅名は旧高井戸町下高井戸字浜田山が由来という。地名は当地に山林を持っていた新宿の豪商・浜田屋与兵衛にちなむとされる。駅の南北では阿佐ヶ谷駅・下高井戸駅行きのコミュニティーバス「すぎ丸」が発着している。
◎昭和57年　撮影:田口政典

【上北沢駅】

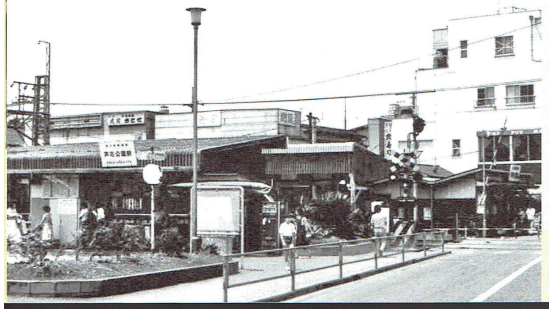
当駅も世田谷区にある駅だが、甲州街道に近く杉並区民の利用者も多い。「京王電気軌道」（現京王電鉄）の開業時からの駅で、大正2（1913）年4月に地名（荏原郡松沢村大字上北沢）から「上北沢駅」で設置された。4年後の大正6（1917）年には「北沢駅」と改称する。だが昭和7（1932）年10月の東京市への編入で「世田谷区」となり、地名・北沢の区域変更などでの混乱を避けるため「上北沢駅」に戻した。地名の「北沢」は、沢の多い地点の上流の北側に位置していたところから命名されたという。◎昭和52年　撮影:田口政典

【八幡山駅】

杉並区内にあるただ一つの京王電鉄線の駅。鉄道開業から5年後の大正7（1918）年5月、地名（荏原郡松沢村）から取り「松沢駅」で開業した。昭和12（1937）年9月には駅名の観光化から「八幡山駅」へと改称するが、付近にある「八幡神社」が由来とされる。当駅は両駅との距離が短く、新宿駅寄りの上北沢駅とは600メートル、京王八王子駅寄りの芦花公園駅とは700メートルしかない。これは大規模な府立（現都立）松沢病院の移転によって駅の設置が求められ、病院に近接する上北沢駅と芦花公園駅の中間地点に後で駅を設置したからである。
（関係記事184ページ）◎平成4年　提供:田口重久

【芦花公園駅】

「京王電気軌道」（現京王電鉄）の開業時の大正2（1913）年4月に「上高井戸駅」として開業した。甲州街道付近の「豊多摩郡高井戸村上高井戸」という、現杉並区の地名から取った。昭和12（1937）年5月、他の11駅の観光化とともに「芦花公園駅」と改称する。新駅名は付近にある作家・徳富蘆花の旧宅跡の「蘆花恒春園」にちなむ。◎昭和52年　撮影:田口政典



京王線（旧京王電気軌道線）

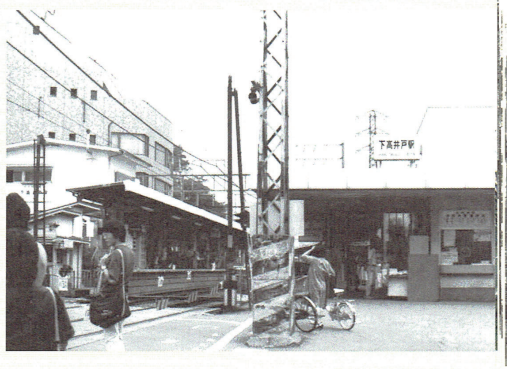
大正2（1913）年4月に笹塚～調布間を開業させた「京王電気軌道」が前身鉄道。戦後の昭和23（1948）年6月に「帝都電鉄」と合併し「京王帝都電鉄」となり、平成10（1998）年7月に現在の「京王電鉄」と改称した。杉並区内の駅は八幡山駅だけだが、区隣接駅では多くの区民の利用している。

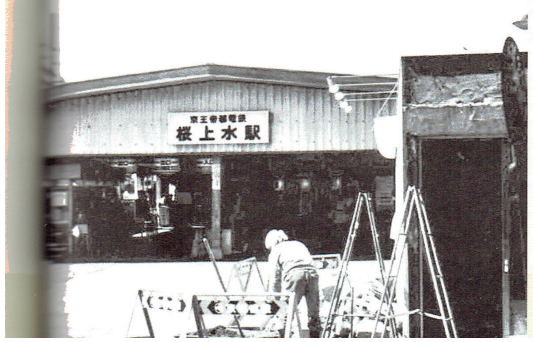
【明大前】

所在地は世田谷区松原なのだが、隣接する甲州街道の北側の杉並区和泉付近から乗る利用者も多い。大正2（1913）年4月に「京王電気軌道」（現京王電鉄）が「火薬庫前駅」として開業した。現駅北側に陸軍の火薬庫があったからだ。大正6（1917）年には地名の「松原駅」に改称している。一方「帝都電鉄」（現京王井の頭線）は昭和8（1933）年8月に「西松原駅」で開業するが、昭和9（1934）年4月に付近へ明治大学予科が移転してくると、翌昭和10（1935）年2月には現在地に移転して、帝都・京王の両線とも「明大前駅」と改称した。
（関係記事173ページ）◎提供:京王電鉄（撮影日不詳）

【下高井戸駅】

当駅も世田谷区松原にあるが、駅名は杉並区の地名である「下高井戸駅」を名乗る。大正2（1913）年4月の開業に当たっての駅名は、隣接する甲州街道・高井戸宿から命名した。日本大学予科（現文理学部）が開学する翌昭和13（1938）年3月には「日大前駅」と改称する。戦時に京王電鉄が東京急行電鉄に併合されると、同電鉄系統の「玉川電鉄下高井戸線」（現東急電鉄世田谷線）の終点駅に合わせて下高井戸駅に戻した。
（関係記事179ページ）◎昭和54年　撮影:田口政典





【桜上水駅】

「京王電気軌道」（現京王電鉄京王線）が大正2（1913）年4月に開業した当時にはなかった駅。乗客増につれて京王では車庫の設置が必要となり、大正15（1926）年4月に「北沢車庫前駅」で開業する。昭和8（1933）年8月には「京王車庫前駅」に改称するが、駅名の観光化などにより昭和12（1937）年5月に「桜上水駅」と改称した。付近を流れる玉川上水の堤にあった桜並木が、駅名の由来とされる。現在の当地は「世田谷区桜上水」の地名が付くが、駅名が由来の地名だ。
◎昭和55年　撮影:田口政典

11.永福～浜田山～大宮付近（明治39年）

地名由来の2つの名刹「大宮八幡宮」と「永福寺」

広大境内を持つ「大宮八幡宮」

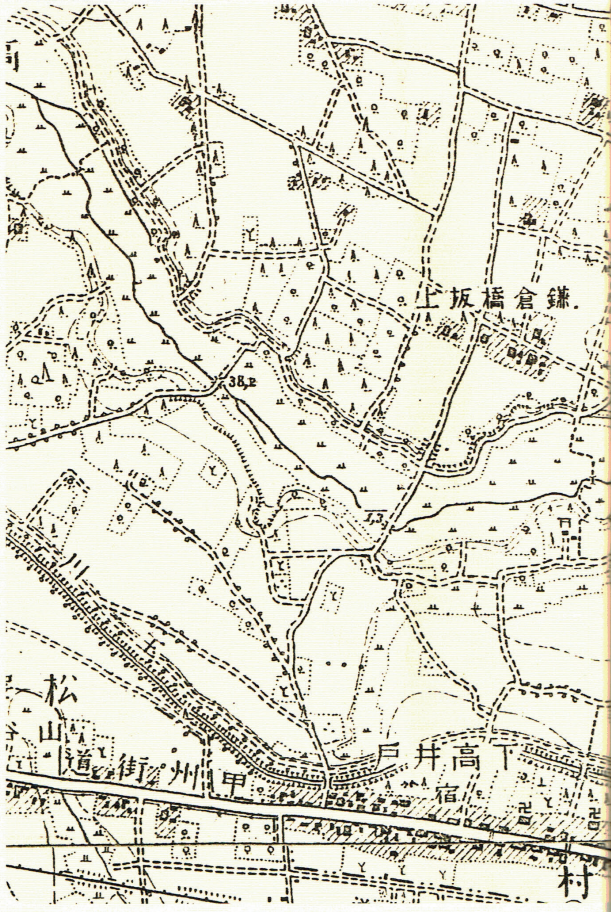
「大宮八幡宮」（大宮2-3＝地図上○印）は、武蔵国三大宮のひとつで「多摩の大宮」と呼ばれる。地名の大宮は当八幡宮が由来。

平安時代に鎮守府将軍・源頼義（988～1075）が奥州への出陣の際に当宮で祈願して勝利したので、報賽のため康平6（1063）年に当地に源氏の氏神である八幡神を祀って建てたのが創始とされる。

従来は「大宮八幡神社」と称していたが昭和56（1981）年に「大宮八幡宮」と改称した。旧和田村の鎮守で、東京のほぼ中心に位置するので「東京のへそ」とも呼ばれる。23区内では明治神宮・靖国神社に次いで広い1万3061坪（4万3000平方メートル）の境内を有し、樹木1万本の緑に包まれる。

広い境内を持つ八幡宮の一之鳥居

大日本陸軍参謀本部陸地測量部「1/20,000地形図」



火薬庫跡の払下げでできた「築地本願寺和田堀廟所」

明大前駅の北側には鉄砲や火薬を貯蔵する「和泉焔硝蔵（いずみえんしょうぐら）」（火薬庫＝地図下○印）があった。明治維新後に政府（陸軍）に引き継がれるが、旧和田村などの近隣住民は、禁猟など火の取り扱いを厳しく制限された。大正末期に廃止され跡地は昭和5（1930）年、築地本願寺と明治大学に払い下げられる。

築地本願寺は関東大震災で焼失した別院の再建のため、当地に別院としての「和田堀廟所（わだほりびょうじょ）」（永福1-8）を設置した。しかし昭和20（1945）年の戦火で全焼してしまったので昭和28（1953）年、本堂を再建して今日に至る。

旧築地の墓所にあった500墓（区画）は当地へ移転されたが、現在は4000区画に増えている。作家・樋口一葉、元首相・佐藤栄作、作曲家・古賀政男、作家・海音寺潮五郎、女優・水谷八重子など、錚々（そうそう）たる故人が数多く眠る。

現築地本願寺の和田堀廟所

「明大前駅」は旧「火薬庫前駅」

現「明大前駅」（世田谷区松原1-36）は、火薬庫跡にちなみ「火薬庫前駅」で開業した。しかし火薬庫廃止の大正6（1917）年、村名の「松原駅」と改称する。

さらに明大専門部が移転してきたのを機に、昭和10（1935）年2月には駅を東側に移設させて現在の「明大前駅」と改称した。

快慶作の観音像も持つ「永福寺」

井の頭線の急行も停まる「永福町駅」がある付近は明治の昔は「永福寺村」（現永福）といった。地名は駅南側に建つ「永福寺」（永福1-25＝地図中○印）に由来する。

開創は大永2（1522）年で、開山は秀天慶実とされ、500年にわたって当地に建つ名刹である。当村の発展は「小田原城落城後に、北条氏の家臣・安藤兵部丞が当寺の住職を頼ってこの地に帰納し、永福寺の檀家となり、村の開発につとめた」（区教委解説板）とされる。

本尊は十一面観音像で鎌倉期を代表する名仏師・快慶の作という。境内の庚申塔は区内最古。

永福寺村は明治22（1889）年に4カ村が統合し「和田堀内村」となり、旧村名は大字名となった。

永福寺の山門と境内入口

11.永福～浜田山～大宮付近（大正6年）

プールやスケート場もあった遊園地「吉田園」

永福町駅の南側には大正初期から「吉田園」（現永福2-1付近＝地図上○印）という遊園地があった。京王電気軌道（現京王電鉄）のパンフレット（39ページ）にも登場するほどだから、かなり有名だったようだ。

以前には玉川上水から引いた清流を使っての製氷池があり、その場を生かしてスケート場を造った。鳩山（一郎）一家などの貴族・華族なども訪れ、三つ揃いや着物姿で楽しんだという。他にもプール・テニスコート・滑り台など様々なアトラクションがあり、グラウンドでは運動会も行われた。料亭も設置されており、桜やホタルの鑑賞もできたので、役者・芸者などの社交場にもなっていたという。

園では東京府水道局に掛け合って私費で玉川上水に橋（小菊橋）を架け、駅などから吉田園までの近道を造り、時には音楽隊を行進して盛り上げた。

「園は風光絶好にして丘あり。谷あり、池あり、広き運動場、茶亭等ありて小遠足として好適の場所にあり」（東京女子高等師範付属女学校校友会「遠足の栞」）との感想文も残り、繁盛ぶりが伺える。しかし戦争の影響で昭和初期に閉園となってしまう。

令和時代に入った今では小菊橋もなく、広大な敷地跡は区立永福中央公園と永福自転車集積所になっていた。

大日本陸軍参謀本部陸地測量部「1/20,000地形図」

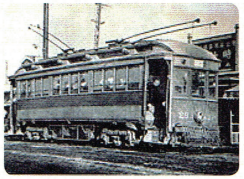
中央線の建設で発奮して「京王電気軌道」が開業

現「京王電鉄」は「京王電気軌道」で設立され、大正2（1913）年4月に笹塚～調布間（地図下○印）で開業した。「京王」は「東京」と「八王子」の略称。この時に下高井戸・上北沢・上高井戸（現芦花公園）・烏山（現千歳烏山）など、区民に身近な駅も設置される。

京王電軌の開業に当たっては、「甲州街道沿いに走らせる計画があったが敷設に反対したので、甲武鉄道（現中央線）は北側に行ってしまった。しかし鉄道が敷かれた地域の繁栄ぶりを見て発奮し、町ぐるみで鉄道の誘致に尽力した経緯がある」（「中野町誌」「むかしの杉並」）とされる。

大正5（1916）年10月には、延伸した新宿（新宿追分）～府中間が専用・併用軌道の混在線で全通した。府中～東八王子（現京王八王子駅）間は「玉南（ぎょくなん）電気鉄道」が大正14（1925）年に開業させるが、翌大正15（1926）年12月に京王電気軌道と合併する。合併で昭和3（1928）年5月、新宿～府中～八王子間は直結した。

昭和19（1944）年5月には「東京急行」（現東急電鉄）となり、戦後には「旧京王電軌」と「帝都電鉄」（現井の頭線）が合併し「京王帝都電鉄」として独立した。平成10（1998）年7月に「京王電鉄」と改称し今日に至る。



開業時の京王電軌線の車両
◎提供:京王電鉄

跡地は今は公園などがある

スケートを楽しむ人々　◎提供:すぎなみ学倶楽部

11.永福～浜田山～大宮付近（昭和8年）

「帝都」を名乗って開業した「井の頭線」

渋谷～吉祥寺間を走る「京王井の頭線」（地図○印点線）は、杉並区内で最も多い駅数6駅（永福町・西永福・浜田山・高井戸・富士見ヶ丘・久我山）を持つ路線だ。

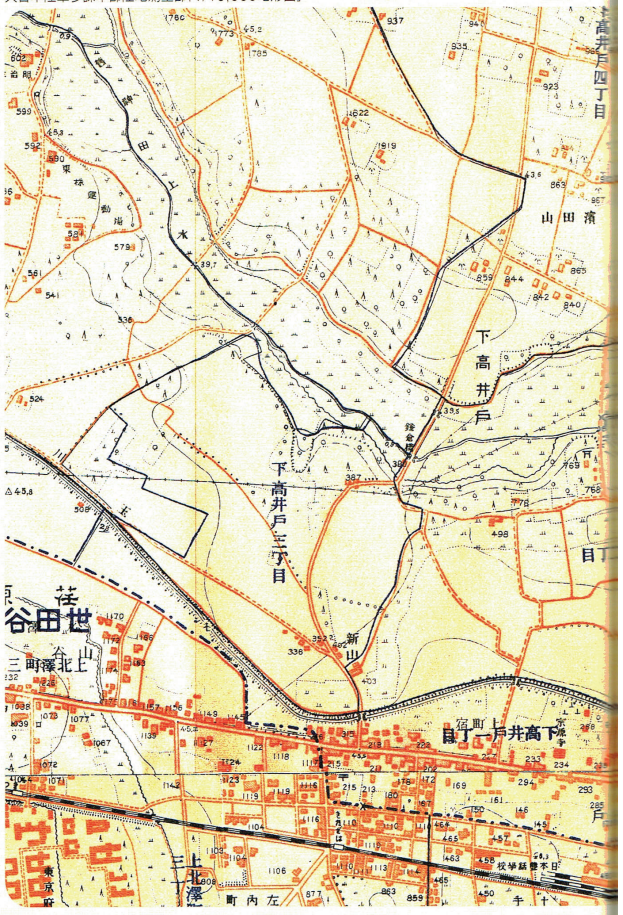
計画時の同線は、「東京山手鉄急行」（40ページ参照）が「渋谷急行電鉄」を合併させた社名の「東京郊外電鉄」で敷設しようとした。だが郡部（豊多摩郡・北多摩郡）だった現渋谷・杉並の区域が昭和7（1932）年10月、帝都と呼ばれる東京市に移行したので「今や田舎ではなく、帝都を走る鉄道だ」として「帝都電鉄」と改称する。

帝都電鉄では計画線を3本発表して、地主たちの誘致運動を競争させ、土地を安く提供させたという。こうして昭和8（1933）年8月に現ルートの渋谷～井の頭公園間を開業、翌年4月に吉祥寺までを延伸させ全通する。

その後の昭和16（1941）年3月に東京山手急行系の「小田原急行鉄道」（現小田急電鉄）との合併で同線の帝都線になり、翌昭和17（1942）年5月には小田急が「東京横浜電鉄」（現東急電鉄）に合併されると「井の頭線」へ改称した。

戦後の昭和23（1948）年6月には東急の解体で、井の頭線は「旧京王電気軌道」（現京王電鉄）所有の

大日本陸軍参謀本部陸地測量部「1/10,000地形図」



杉並で1世紀の単科大学「高千穂大」と「女子美」

私学初の高等商業学校

「高千穂大学」は明治36（1903）年、現新宿区で「高千穂学校」として開学した。大正3（1914）年4月に当地（大宮2-19）に移転、わが国初の私学による高等商業学校「高千穂高等商業学校」を開校する。区内の大学では86年の歴史を持ち最古だ。

昭和25（1950）年には「高千穂商科大学」に昇格、平成13（2001）年4月からは学部を増設し、総合大学の「高千穂大学」となった。

区内で最古の大学・高千穂大学

私立美大で最古の「女子美」

私立の美術大では最古の「女子美術大学」（和田1-49）は、女子入学を認めない「東京美術学校」（現東京芸術大学）に対峙して明治33（1900）、「女子美術学校」で現文京区に創設された。

昭和10（1935）年1月、杉並区和田に移転、昭和24（1949）年「女子美術大学」となる。片岡球子（たまこ）などの画家以外に、女優の奈良岡朋子・賀来千香子らも学んだ。

杉並で85年の歴史を持つ女子美術大

路線となり、帝都電鉄と結合した社名の「京王帝都電鉄」に改称、同社の路線となった。

平成10（1998）年7月には京王帝都は「京王電鉄」と社名変更し、「京王電鉄井の頭線」として現在に至る。

ちなみに下北沢駅ではつい先日まで、井の頭線と小田急線間の乗り換えのための改札は省略されていた。これは井の頭線が旧小田急の経営路線だった戦前時代の名残といわれる。だが駅舎改修に伴って平成31（2019）年3月からは、井の頭線と小田急線の改札が分離され、やや不便になってしまった。

井の頭線の電車（永福町駅屋上広場で）

11.永福～浜田山～大宮付近（昭和32年）

ラストエンペラーの弟に杉並から嫁いだ侯爵令嬢

日本が建国する満州国（清朝）の新皇帝に明治41（1908）年、愛新覚羅溥儀（ラストエンペラー）が就く。日本と満州国の一体化を目論む関東軍（旧日本軍部）は溥儀の実弟で、日本留学時代に天沼で暮らしたこともある溥傑の花嫁を日本の公卿・華族から探すことにする。

そこで侯爵・嵯峨実勝と尚子夫妻の長女・浩に白羽の矢を立てた。浩は女子学習院を出て洋画執筆に没頭していたが、突然の政略結婚の縁談に「私は死んだつもりでお国のために結婚しなければならなくなりました。本当はもっと平凡な結婚がしとうございました…」（杉並区HP）と心境を手紙にしたためる。当初は乗り気ではなかったが、溥傑に会いその人柄に魅かれて結婚へ。

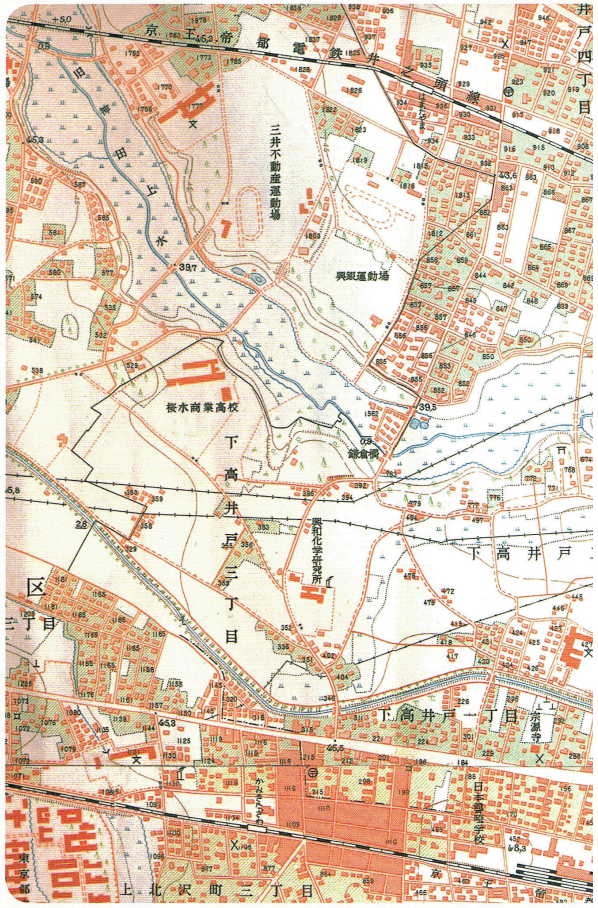
昭和12（1937）年4月3日、浩は杉並区大宮町（現大宮1-2＝地図○印付近）に住む祖父・公勝の願いに応えて祖父邸から出立する。

区長の配慮で舗装した道路を浩は、多くの車に先導されて式場の軍人会館（現九段会館）に向かう。沿道には地元の小学生や町内会の人々が日本・満州の両国旗を振って見送った。

だが戦争が日本の敗戦で終わると夫妻は引き離され、拘束されながらの日々を耐える。昭和35（1960）年に溥傑が解放され2人は15年ぶりに再会、北京で一緒の日々を過ごす。浩は何度か日本に里帰りしつつ昭和62（1987）年6月、73歳で「流転の王妃」と呼ばれる生涯を閉じた。

浩が嫁いだ旧嵯峨邸跡は、現在「杉並区立郷土博物館」になっており、館内に残る庭石が、嵯峨家の面影を今に伝える。

建設省地理調査所「1/10,000地形図」



路面電車「玉電」終点駅と昭和の風情の「駅前市場」

路面電車（チンチン電車）の「玉電」で知られる「東急世田谷線」の終点駅は「下高井戸駅」（下高井戸駅で開業し、日大前駅を経て現駅名に再び戻る）だ。駅名は杉並の地名だが、世田谷区（松原3-29）にある。

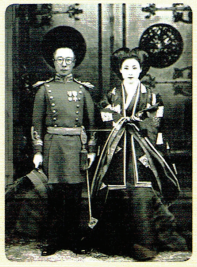
大正14（1925）年1月、「玉川電気鉄道」の支線「下高井戸線」で発足する。渋谷～二子玉川間の本線は「交通渋滞の元凶」とされ昭和44（1969）年に廃止されたが、専用軌道の多い当線（同時に「世田谷線」と改称）は生き残る。

駅前には昭和の風情が残る「下高井戸駅前市場」（松原3-42）と呼ばれる小さな商店街がある。昭和31（1956）年に建てられた建物内では魚屋や肉屋・八百屋・惣菜店など10店ほどが並ぶ。

東急世田谷線の終点駅・下高井戸駅

昭和の雰囲気の「下高井戸駅前市場」

旧嵯峨家跡に建つ区立郷土博物館



愛新覚羅浩溥傑・浩の結婚記念写真
◎出典:毎日新聞社「一億人の昭和史1930年」（ウイキペディア）

11.永福～浜田山～大宮付近（昭和58年）

いざ！鎌倉の「鎌倉街道」今はコミニティバスが走る

区内に架かる「鎌倉橋」

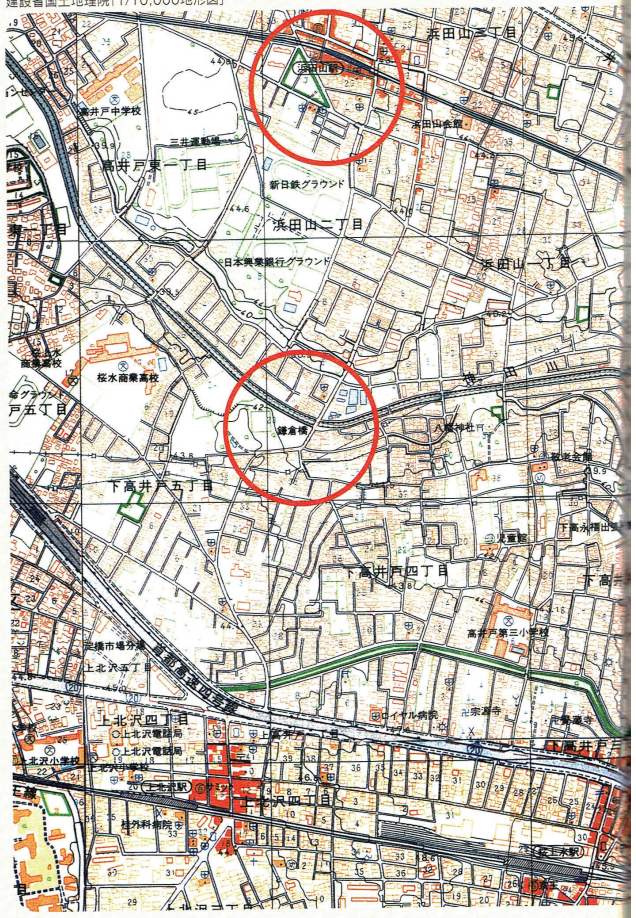
「鎌倉街道」は古代からの幹線道路だが数多く存在する。鎌倉時代には将軍・源頼朝が支配力強化のために力を注いで建設した。目的は各地と幕府地・鎌倉を結ぶ道路網として、御家人が有事の際に鎌倉に馳せ参じるための道であり、命令が出るたびに武士たちは「いざ鎌倉！」として急行する。

当街道は鎌倉～室町時代に繁栄したが、江戸時代以降に甲州街道ができると脇道的な性格が強まり、次第に衰えてゆく。古くは「鎌倉往還」「鎌倉道」などと呼ばれる。

鎌倉街道と呼ばれる道は数多く存在する（ルートは諸説ある）が、中野・杉並では、①中野駅東側～鍋屋横丁交差点～中野富士見町駅～南台～甲州街道～上北沢付近（鎌倉街道入口の信号）②杉並高校付近（成田西4.15）～井の頭線～鎌倉橋～甲州街道～上北沢駅付近の2ルートがあるとされる（Google地図では②のみ表記）。

ちなみに杉並区には鎌倉橋という、街道名そのものの橋が神田川（下高井戸4.43＝地図下○印）に架かる。

建設省国土地理院「1/10,000地形図」



リッチが住む井の頭線 私鉄一は「浜田山」!?

野村総研が日本で初めて調べた「私鉄沿線別・世帯当たりの年収・金融資産状況」（平成19年）によると、トップは「京王井の頭線」だという。年収では井の頭線が709万円で、2位の東急東横線の700万円、3位の東急目黒線689万円を引き離す。金融資産（預金・保険・有価証券の合計値）でも、井の頭線が3321万円で第1位、2位に東急大井町線の3242万円、3位に東急池上線の3221万円が続く。いわゆる私鉄でもっともリッチな沿線は井の頭線というわけだ。

同総研では「所得上位の地域は、生産年齢人口や雇用者の比率が高く働き盛りであり、金融保険業、不動産業、情報通信業といった比較的所得水準が高い職業従事者の比率が高い」と分析する。

杉並区の「長者番付記載者が多かったのは浜田山で、さらに荻窪・南荻窪を除いて、上位は永福・久我山・宮前・和泉とほぼ井の頭沿線の地域で独占されている」（「これでいいのか杉並区」）とされる。これらの資料から、全国の私鉄沿線では井の頭線・浜田山駅（地図上○印）周辺の住む人が最もリッチ!?といえなくもない。

浜田山駅前の商店街

杉並区内の鎌倉街道には2路線の、コミュニティバスが走っている。区内の南北をつなぐ道路は狭隘な箇所が多く、既存の路線バスの乗り入れが難しかった。このため区南部に住む住民は、公共施設が集まる阿佐ヶ谷方面に行くのには不便を強いられていた。そこで区が平成12（2000）年11月から、小型のコミュニティバスを運行することにする。バスの愛称は区のイメージキャラクターである「すぎ丸」（南北バス）とした。

当初は主に鎌倉街道に沿って走る中央線・阿佐ヶ谷駅～井の頭線・浜田山間での「けやき路線」の運行を始めた。100円均一という手軽さもあって好評を博し、平成16（2004）年には同街道を主に走る浜田山駅～京王線・下高井戸駅入口間の「さくら路線」、平成20（2008）年には中央線・西荻窪駅～井の頭線・久我山駅間の「かえで路線」を増やしている。

鎌倉橋の鎌倉街道を走る「すぎ丸」

増える「すぎ丸」の路線